

ウィンタースポーツの可能性を実感！！

長野県冬季観光説明・商談会 -SNOW RESORT NAGANO- の開催

駐在事務所の設置や業務委託などその手法は様々ですが、数多くの地方自治体が中国において観光客の誘致や地元産品の販路開拓、企業の誘致活動といった経済分野に重心をおいた活動を活発に行っているところです。こうした傾向をとらえ、当協会では2010 年度から地方自治体の経済交流活動のバックアップを図るため経済交流課を創設し、具体的な事業の一つとして助成とサポートが一体となった「海外経済活動支援特別対策事業」により、地方自治体が実施する先駆的な海外経済活動事業への支援を行うこととしています。（平成 23 年度の助成申請書の受け付けは 12 月 17 日までで締め切らせていただきました。）

今回、この事業の対象である長野県が北京市内において行った観光説明・商談会について紹介させていただきます。

■ 事業の概要

件 名：長野県冬季観光説明・商談会 -SNOW RESORT NAGANO-

日 時：2010 年 12 月 1 日（水）

場 所：長富宮飯店（中国北京市）

主 催：長野県、（社）信州・長野県観光協会、妙高市観光協会、
宿泊施設等観光関係者、自治体国際化協会等

参加者：（中国側）

北京市旅遊局、中国滑雪協会、北京市等旅行会社、スキー関係者、
メディア関係者

（日本側）

在中国日本国大使館、日本政府観光局（JNTO）北京事務所

内 容：①観光プレゼンテーション及びプロモーション DVD の放映

②中国におけるスキー状況説明（中国滑雪協会 楊軍副秘書長）

③個別商談会

■ 当協会北京事務所の位置づけ

事業採択にあたっては、①独自性・先進性 ②事業内容・経費 ③経済波及効果 ④模範性 ⑤海外事務所の必要性 といった項目から経済交流課を通じて採択案件が決定されます。⑤海外事務所の必要性 についてはこれまで各海外事務所行ってきた活動支援事業と同じく、海外での事業遂行をよりスムーズに行っていただくために海外事務所が各種支援を行う必要があるか否か、という点において判断されることとなります。そして、事業採択後から実際に活動を行うまでのところで、北京事務所との連絡調整が発生することとなります。

ところが各種支援といっても、各自治体の活動の目的や内容、また特に課題として
いる点や手法などは様々であり、必要とされる支援の内容もそれらに応じて様々です。
そのため事前の調整が必要となってきますが、今回の採択事業について長野県と北京
事務所との間では、依頼事項をまとめていただいた上で各事項について個別に対応の
可否を検討し、支援事項を決定していくという形で準備を進めていきました。長野県
関係者の中には北京市のほか中国国内に活動拠点をお持ちの方もいらっしゃいまし
たので、観光説明会の準備は単独で周到に行われておりました。北京事務所としまし
ては、相手方のアポイントメントの取り付けや備品や消耗品の調達といった点で準備
を進めていきましたが、今回最も効果的にお手伝いできたのは「場」の提供だと思
います。観光説明会・商談会の会場が北京事務所に隣接していたため、当日使用する
物資を保管する「場」として事務所をご利用いただいたほか、連絡調整や資料の準備
を行う中で使うパソコン、プリンタ、デスクといったオフィス機能を持つ「場」、ま
た JNTO 北京事務所を招いての事前ブリーフィングを行う「場」、PR 資材の準備・
整理の「場」として事務所会議室をご利用になりました。もちろん北京市外の地域に
おいて同様にこうした「場」を費用をかけることなく提供していくことは難しいかも
しれませんが、北京事務所としましても支援方法の一つとして蓄積し、有用な方法を
一つでも多く増やしていきたいと考えております。また支援を行っていく過程で、事
務所として蓄積される汎用性・公共性の高いスキームは、今後活動支援を行ってい
く中で多くの自治体のみなさまにご提案していくことにより還元していきたいと思
っています。



<事務所会議室を利用した準備の様子>



<観光 PR 用資材の一部>

■ 観光説明・商談会の実施

中国国内では多くの地方自治体が観光説明・商談会の取り組みを行っています。広
大な中国において、活動の場所や活動の方法、アプローチの仕方などの組み合わせは
無数にあるといえます。こうした中、今回テーマとされたのは「スキー」、そして中
国有数の訪日旅行市場であり、スキー人口も多い北京市をその舞台として、観光プロ
モーションが行われました。中国からは旅行会社やメディア関係者など予想を上回る
約 90 名が来場し、長野県が持つ観光の魅力に対する強い関心をうかがうことができ
ました。

冒頭、主催者を代表して（社）信州・長野県観光協会の両角良昭専務理事から「北京市はウィンタースポーツに非常に関心の高い地域であるため、多くの方に長野県に来ていただきたい」という挨拶がありました。その後、日本でスキーが発祥して来年（2011年）で100周年を迎えるほか、その翌年（2012年）には長野県のスキーが発祥してから100周年を迎えるにあたり、1998年の冬季オリンピック会場でもあり日本を代表するウィンターリゾート地でもある長野県の観光プレゼンテーションが行われました。長野県のスキーが歩んできた歴史が紹介された後、県内に約100箇所あるスキー場のうち白馬や志賀高原、野沢温泉、妙高高原といった日本国内でも有名なスキー場、そして近隣に湧き出る温泉をはじめとした豊かな観光資源が紹介されました。また、そうした長野県の魅力を体感できる旅行ルートの提案がなされました。この提案の中で特に春、満開の桜の花のバックにスキーを楽しむことができる雪山が広がる風景写真は大変印象的で、桜と雪を楽しむことができる数少ない観光地として多くの来場者の興味をひいたのでは、と思います。

続いて、中国滑雪（スキー）協会の楊軍副秘書長より中国のスキー事情に関する説明が行われました。この中では「中国では近年スキーがブームになっており産業化もすすんでいる。そして国内のスキー客は年間300万人に達しており、増加傾向にある。中でも北京市のスキー客は100万人とその3分の1を占めている。中国の人口を考えると割合としては低い現状にあるが、この15年間で国内15省市に200以上のスキー場が建設され、経済発展に伴い今後スキー関連産業は爆発的に拡大する可能性を秘めている。成長産業であるがゆえ同時に中国国内の環境整備を行っていく必要がある」といった点が説明されました。楊副秘書長のこの指摘は多くのスキー場を有する日本の各自治体にとっても示唆に富んだものであると思います。

その後、長野県のホテルや観光協会など14団体によりブースが設けられ観光商談会が行われました。ある旅行会社の方に話を伺うと「冬季の旅行商品として長野県を訪れる企画をすでに進めていたところだ。これからの冬季シーズンから早速販売できればと考えており、多くの人気を集めるものと思う。今回の商談会では関係者に話を聞くことができたので、商品の開発においても有用であった」という感想を聞くことができました。



<説明会の様子>



<中国滑雪協会楊軍副秘書長による講演>



<商談会の様子>



<関係者を招いての交流会の様子>

当日の観光説明・商談会に引き続き、翌2日間は南山スキー場、軍都山スキー場や鳥の巣（北京国家体育場）といった北京近郊のスキー場を視察し、中国国内のスキー関係者と意見交換を通じて交流を深められたということです。そして今後も引き続き中国国内のスキー専門紙への広告掲載などを通じて長野県の魅力発信を行っていく予定とされております。



南山スキー場

ウィンタースポーツをテーマとした観光プロモーションをスキー人口が集中し、そしてこれからも増加していくことが期待される北京で開催することができたことについて、ご関係のみなさまは今回多いに手ごたえを感じていらっしゃいました。こうした取組みを通じて日中双方のスキー振興が図られていくとともに、より多くの中国からのスキー旅行者が魅力的なスキー場を多く有する日本を訪れてくださることを願っています。